

第5回 北陸銀行若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名	助成金額	
安部 聡一郎	人間社会研究域歴史言語文化学系・准教授	350,000円	
研究課題名	木簡の作成方法に着目した、中国辺境部出土簡牘と韓国出土木簡の比較研究		
研究の概要	<p>本研究は、古代の中国・朝鮮半島・日本列島で書写材料として広汎に使用された木簡・竹簡（総称して簡牘）について、その形態的特徴に注目し、従来未解明であった中国辺境部と朝鮮半島の木簡使用の具体的関連を、書写材料の面で明らかにすることを目的とする。これは、古代東アジアにおける書記文化の拡大経路を解明する基礎を提供する意義を持つ。</p> <p>上記目的を達成するため、本研究では、研究協力者と共に中国・甘肅省博物館において、居延新簡など新中国成立後に出土した漢代簡牘、および関連出土遺物の実地調査を実施する。この実見調査は形態観察を主たる方法とし、これに基づきその作成方法の分析を行う。併せて購入する関連図書等も用い、韓国出土木簡と比較する。その成果は、筆者が共同研究員として参加している国立歴史民俗博物館の企画展示「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」（2014年秋開催予定）とその関連企画、および論文の公表を通して公開する。</p>		
研究の成果	<p>関連する課題で採択された本学戦略的研究推進プログラムと併せ、2013年8月、研究協力者の橋本繁氏（早稲田大学商学部）と共に、上述の甘肅省博物館（中国・甘肅省蘭州市）に加え、同地所在の甘肅省文物考古研究所における実地調査を実施した。その調査結果、および購入した関連研究図書の調査検討により、まず中国辺境部出土の漢代簡牘中に小枝を活用した木簡が広く見られること、それにはその樹種と幹・枝の生育速度が関係することに関し知見を得た。さらに、城山山城出土韓国木簡にみられる小枝を活用した簡便な木簡作成方法が、中国の漢代簡牘中にみられる「券」の作成方法と共通し、かつ両者の作成方法は、共に官による物品輸送の管理の必要に応じたものであることを確かめた。従来、韓国木簡と中国漢代簡牘の形態に類似するものがあることは指摘されていたが、実見に基づき、作成方法にまで踏み込んで具体的な両者の共通性を実証した例は今までになく、日本・朝鮮・中国での文字利用と行政システムの相互関係、およびその系譜関係を考える上で確かな基礎を築いたことが本課題の成果である。</p> <p>これらの成果の公開については、下欄「研究成果発表状況」の通り、論文2本（1本公刊済み）、口頭発表1回（実施済）のほか、講演1回を予定している。</p>		
研究成果発表状況	<p>① 論文「3世紀中国の政治・社会と出土文字資料」（『歴史評論』769号（2014年5月号）、校倉書房、2014年5月、pp.54-64。依頼原稿）</p> <p>② 論文「韓国城山山城木簡と中国居延漢簡の比較研究——特に作成方法に注目して」（『国立歴史民俗博物館研究報告』に投稿中、査読あり、編集委員会より掲載を前提としての小規模修正の依頼を受領済）</p> <p>③ 口頭発表「關於聶澂萌《中古目录學史部的形成——兼論中古时期“史”的涵义》的評議意見」（中国語）（第7回中国中古史青年学者国際会議、東京都・中央大学多摩キャンパス、2013年8月24日、招待発表）</p> <p>④ 講演（題名未定、歴博フォーラム「古代東アジアの文字文化交流」におけるもの、千葉県・国立歴史民俗博物館、2014年11月1日開催予定、招待講演）</p>		
経費の執行状況	区分	執行額（円）	備考
	物品費	707円	ファイル等3点
	図書	50,863円	『天水放馬灘秦簡集釈』等関連研究図書6点
	旅費	298,430円	外国（中国）1件 238,110円 国内（東京都）1件 60,320円